

令和5年度
第5次地域福祉計画策定に向けた
住民参加型会議実施報告書

令和6年3月

目次

1	住民参加型会議の概要	
(1)	実施目的.....	1
(2)	参加者.....	1
(3)	実施時期.....	1
(4)	プログラム.....	2
2	住民参加型会議開催記録	
(1)	北部地区.....	3
(2)	中部地区.....	12
(3)	南部地区.....	22

1 住民参加型会議の概要

(1) 住民参加型会議実施の目的

本市では、地域福祉の方針を示す「第5次刈谷市地域福祉計画」(計画期間令和7～11年度)を社会福祉協議会の地域福祉活動計画と一体的に策定しています。

計画策定の一環として、各地区において10年後を見据えた地域福祉の将来像並びにそれを実現するための取り組みを検討する、ワークショップ形式の地域会議を開催しました。

本会議で出されたご意見・ご提案は、計画策定の基礎資料として活用させていただきます。また、それぞれの地域での地域福祉活動の推進に活用していただくことを期待しています。

(2) 参加者

市内3地区の自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員会の役員など

(3) 開催日

地区	北部	中部	南部
日時	12/15(金) 15:00～	12/12(火) 10:00～	12/7(木) 15:00～
場所	富士松市民センター 第1研修室	刈谷市役所 503会議室	南部生涯学習センター 研修室1B
参加人数 〔グループ数〕	22名 〔4グループ〕	16名 〔3グループ〕	10名 〔2グループ〕

(4) プログラム

1. 開会

2. あいさつ

3. ガイダンス

4. グループワーク

グループワーク①：「10年後の地域福祉の将来像を描こう！」

STEP1：10年後の地域への“不安”と“理想”について、意見を出し合う

STEP2：出された意見（不安と理想）を類型化し、グループメンバーの意見の方向性を確認する

STEP3：メンバーの意見をふまえながら、“こうなって欲しいなあ”と思う、地域の将来像（理想のイメージ）を整理する

グループワーク②：「将来像に近づけるための取り組みを考えよう！」

STEP1：グループワーク①で考えた地域の将来像実現に向けて、地域でより充実していきたい取り組み、今後の取り組みアイデアを出し合う

STEP2：出されたアイデアについてメンバー間で意見交換し、とくに重要・大切だと思う取り組みを2～3つ絞り込む

5. 全体ワーク「大切だと思う取り組みを共有しよう！」

6. 事務連絡・閉会

2 住民参加型会議開催記録

(1) 北部地区

◆意見まとめ

北部地区では、子どもが少なくなっている、ひとり暮らし高齢者等が多くなり、見守りや緊急時の対応が必要、地域のつながりが無い、地域の活動や行事の担い手がないため、継続できなくなること等の不安が多くあげられています。

その対応策としては、あいさつや声かけを通じて顔の見える関係づくり、少ない労力で効果的に行う行事等の見直しで役員の負担軽減を図る、地域の人や子どもと高齢者の交流等が提案されています。

地域での取り組みは、「楽しい」をキーワードに、気軽に集まれる機会や場所の創出、ICTを活用した情報発信を続けることで、地域に関心を持ってもらい、若い世代や高齢者が安心できる・活躍できる・つながれる元気な地域にしていこうという提案がされました。

さらに、近隣の大学や企業との連携による地域活動の活発化も提案されています。

◆内 容：

【Aグループ】

ご近所づきあい

【グループワーク①「10年後の地域福祉の将来像を描こう！ 不安と理想」

<不安>

- ・隣の住民との会話が無い。
- ・近所との会話が少ない。

<理想>

- ・家を出て気軽に散歩。→環境整備、安全な道路、隣近所。
- ・町内で声掛け。→顔の見える関係。
- ・共に楽しく暮らせる町。→声をかけ合える隣人、外国の人たちとも気軽に交流。
- ・ふれあうことのできる地域。→すれ違う人たちと会話ができる。
- ・心が通う町。
- ・子どもも高齢者も笑顔で顔が見えるまちに。
- ・近所を大切に！

【グループワーク②「将来像に近づけるための取り組みを考えよう！」 取り組み】

- ・新しい人たちにも進んで声をかける。

高齢化、単身世帯の増加

【①不安と理想】

<不安>

- ・ひとり暮らしに冷たい。出かけづらい(足がない)→買い物、通院が不便。
- ・高齢者が多い。
- ・市街化調整区域ばかりなので新しい人の移住がない。
- ・高齢者が生きていく場所がない。外に出かける場がない。困るとすぐ施設という話になる。
- ・空き家の増加。高齢者の人が亡くなったときに空き家になることが予想される。

<理想>

- ・最後まで住み慣れたまちで暮らしたい。→福祉サービスの充実、自分らしく幸せに暮らせる、地域や身近にサービスセンターが存在するまち。
- ・地域福祉の充実。→施設やサービスが身近にあること。訪問医療も。

【②将来のための取り組み】

- ・福祉委員会の活性化。
- ・気軽に集える場づくり。シニア食堂やカフェ。

自治会、担い手不足

【①不安と理想】

<不安>

- ・自治会未加入者が増える。
- ・町内部会がなくなる。
- ・女性の町内会への協力が特に難しい。
- ・町内会の存続できる？祭りや餅投げがなくなる。
- ・地域活動の担い手不足。活動したい人への負担。無関心の若者が多い。
- ・若者は忙しい。
- ・農業の担い手がいない。→食糧不足や耕作放棄地につながる。

<理想>

- ・市民だよりの回覧がなくなる。→データ化。
- ・地域に積極的に参加。地域を盛り上げるための行事に自分から参加する人たちが増える。

【②将来のための取り組み】

- ・住みやすいまちにするための町内活動。
- ・自治会活動の活性化。地域の問題は地域で解決するしかない。
- ・行事のマニュアル化。各担当(団体)の行事をマニュアル化する。
- ・地域集会所の充実。各地域の市民館に加えてもう一つ集まれる場をつくる。

少子化・多文化交流

【①不安と理想】

<不安>

- ・子どもがいない。市街化調整区域ばかりのため移住者が少なく子どもが極端に減ることが予想される。
- ・子どもたちとの接点なし。挨拶程度しか話せない。
- ・子どもの交流が薄い。子ども会に入らない。
- ・外国の人たちとの交流。近くに住んでいるが交流の場がない。

<理想>

- ・市街化区域への変更。若い人たちが移住してくる。
- ・公園、病院、下水道やコンビニが整備され、子どもが沢山いる町に。

【②将来のための取り組み】

- ・高齢者と子どもがともに集まれる場所。
- ・みんな違っていいと共通認識させる事業。
- ・図書館や農園など気軽に集える場づくり。
- ・地域の行事などで町のことを発信していく。
- ・行政のサポート。→きっかけづくり。

企業・学校との連携

【①不安と理想】

<理想>

- ・地元にある愛知教育大学との交流。大学生との交流を増やす。
- ・地域の誇れることを共有。→交流増やす方法。
- ・地域と企業の連携。

【Bグループ】

少子化・高齢化

【①不安と理想】

<不安>

- ・高齢者の増加。
- ・独居高齢者の増加、少子化。
- ・高齢者の一人住まい、単身高齢者。
- ・緊急連絡先のない人の増加。
- ・高齢者福祉施設、介護者の不足。

<理想>

- ・結婚する人が増える。
- ・公園で遊ぶ子どもが増える。

ご近所づきあい、情報伝達・声かけ

【①不安と理想】

<不安>

- ・近所づきあいが無い。
- ・自治会入会者の減少。
- ・自治会組織の崩壊。→役員をやる人がいない、役員の高齢化。

<理想>

- ・アパート住民の参加。
- ・年齢間のコミュニケーション。年齢ごとの住民把握。
- ・支え合う優しい町。
- ・地域でのつながりが強い。→自治会活動の連携、お互いを知り合える地域。
- ・地域団体の存続。

【②将来のための取り組み】

- ・ホームページの活用。→環境整備、情報の伝達。
- ・皆が集まれる場所をつくる。
- ・交流の場。→昔の遊び、ランドゴルフなど趣味や特技でつながる。
- ・ラジオ体操への参加。
- ・市民館などでの趣味教室→講師の確保。
- ・文化祭で趣味の展示。

生活の不安

【①不安と理想】

<不安>

- ・免許証返納後の買い物が不便。
- ・スーパーがない。遠くに行けない。
- ・外出時の移動。公共機関が少ない。

<理想>

- ・ボタンを押すだけで外出時に車が迎えに来る。
- ・移動販売車や移動検診車が定期的に巡回。

【②将来のための取り組み】

- ・技術の進化。自動運転、ロボット導入。

担い手不足

【①不安と理想】

<不安>

- ・農業の後継者がいない。耕作放棄地が増加。
- ・行催事の消滅。リーダーの不在。
- ・団体の消滅。参加者の減少。

<理想>

- ・行催事への参加者が増加する
- ・生産年齢人口の比率向上。→女性が活躍、高齢者が健康、外国人との協調。

【②将来のための取り組み】

- ・みんなが参加したいと思えるイベントを考える。
- ・補助金の増加。
- ・リーダー育成。→参加意識を高揚。
- ・地域行事を楽しいものにする。

【Cグループ】

担い手不足、高齢化

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 地域でのお世話係の減少。
- ・ 高齢化。若い人が地域で育っていない。
- ・ 跡継ぎ問題。→高齢者が多いので、農業や商店など跡継ぎの問題が多くなる。
- ・ 高齢一人世帯の増加。→人とのつながりもない、買い物難民など。
- ・ 結婚の遅れ。子どもが少なくなる。

<理想>

- ・ 福祉面の充実された地域。→安心安全に暮らせる地域。
- ・ 住みよいまちづくり。→福祉委員会が主体になってまちづくりに取り組み、住民の感想として、このまちに住んでよかったと感じてほしい。
- ・ 若い人口の増加。若い世帯、子どもが増えること。
- ・ 子どもたちの増加のために子どもたちが楽しめる施設。

【②将来のための取り組み】

- ・ 若い世代が住める家の確保。→宅地、生活に必要な施設(買い物、医療など)
- ・ 結婚適齢期の人に出会いの機会をもたらす活動で社会の活性化をする。
- ・ 終活支援。
- ・ 余生を楽しく暮らしてもらう施設、制度の充実。

ご近所づきあい、多世代交流

【①不安と理想】

<不安>

- ・個を尊重した結果つながりがつくりにくい。
- ・人のつながりが少ない社会。自分の生活などで精一杯で他人のことなど構ってられず、人と人とのつながりがない状況。
- ・孤立。相談ができない。

<理想>

- ・世代間やご近所同士でつながる。
- ・多世代のバランスが取れる地域。
- ・地域のまとまり。若い世代と高齢者世代が助け合える地域になる。
- ・顔の見える社会。地域の活動に参加し、人のつながりをつくり楽しい社会にする。

【②将来のための取り組み】

- ・地域に関心を持つ。やってもらうのではなく、自分に何ができるのかを考える。特に高齢者。
- ・高齢者、若い親、子どもが気軽に集まれる場所をつくる。
- ・隣同士の交流活動→月1回の食事会、清掃活動の展開。
- ・高齢者の楽しみ。カラオケ、グランドゴルフなど楽しみなサークルに加入して人生を楽しむ。
- ・地域、隣近所のあいさつ。立ち話。物のやり取り。

生活の不安

【①不安と理想】

<不安>

- ・就職が難しくなる。刈谷市のトヨタ系企業が現在の力を維持できず衰えていく状況。
- ・年金の減少とともに社会全体の活力も減少し、生活が不安。

<理想>

- ・車利用の無償化。
- ・高齢者も子どもも一人で買い物ができる。
- ・就職がしやすい。刈谷市のトヨタ系企業が現在のように力を維持して発展していく状況。
- ・年金は減少するが、いつまでも健康で働ける社会。

【Dグループ】

担い手不足、高齢化

【①不安と理想】

<不安>

- ・高齢化。→地域のお役をしなくてもいい理由になってしまう。
- ・高齢により収入が少なくなり不安がいっぱい。
- ・自治会加入の低減。新しい住民が自治会に加入しない。加入している人も退会する。
- ・老化による活動力減少。老化すると外に出ない。運動の量が減る。
- ・ボランティアの新規加入者がいない。年々高齢化している。

<理想>

- ・70歳以上でも働けるようになる。
- ・健康寿命を延ばす。地域でサークル活動→活動人口を増やす。
- ・若い人が結婚をして子どもが多く生まれる。→人口が増える。
- ・核家族が少なくなって多世代で暮らせる。→一緒に暮らせば不安も少なくなる。

【②将来のための取り組み】

- ・既存の組織を利用、発展する。→組織の人の意識を向上させる、市民だよりで募集。→少ない労力で効果的に。
- ・自治会活動のスリム化。コロナ明けのため、4年前の行事を見直す。→行事の見直し、ICT化、スマホの活用による連絡のスリム化。→緊急時のLINE連絡につながる。
- ・市でキャンペーンをする。→ボランティアや運動などにポイントをつけ、景品がもらえるようにする。

ご近所づきあい、多世代交流

【①不安と理想】

<不安>

- ・孤立化。→人との交流が薄くなっていく。
- ・新しい人との交流が希薄。同じ班内でも顔が見えない。

<理想>

- ・高齢者、子ども、子育てなどもっと相談しやすくなる。
- ・せまい地域で人間関係をつくる。

【②将来のための取り組み】

- ・4月にサークル発表会。→部活動発表会のように市民館で行う。→他地区とも交流。
- ・出張サークル。→自宅に出かけ活動を共にする。
- ・明るい地域をつくる。→挨拶をかわす。
- ・声をかける、認め合う、ほめる。
- ・子どもたちとのつながり。→子ども会行事に参加。
- ・子育てサロンに地域の人として参加。



(2) 中部地区

◆意見まとめ

中部地区では、マンションが増えて住んでいる人がわからない、自治会、子ども会の加入者が減っている、他人との関わりを嫌がる人が増えたといった地域のつながりの希薄化を心配する意見が多く上がる中で、「幸せ実感、ともに笑顔全開」で暮らせる地域にしたいという意見が出されました。

そのためには、「互近助」として、自分から隣の人に声をかける、その隣人は、さらに隣の人に声をかける、さらに隣の人へ、と身近な人にみんなが声をかけることにより、つながりをつくろうという活動が一部地域で進められており、それを中部地区全体でやってはどうかという提案がありました。

また、「防災は福祉」として、日頃の減災・防災活動を進めることは、要配慮者への支援につながることから、若者から高齢者までを巻き込んで取り組んでいきたいという提案があります。

さらに、高齢化の進展により、認知症の人の増加、通院の不安などがあげられ、その対策として、高齢者同士の交流や生活改善による認知症の発症の減少や健康の維持が期待されています。

◆内 容：

【Aグループ】

ご近所づきあい、希薄化

【グループワーク①「10年後の地域福祉の将来像を描こう！ 不安と理想】

<不安>

- ・お隣さんとの関係、希薄化が進むのでは？
- ・隣近所の人、顔を3か月くらい見ない。
- ・自治会加入者、子ども会加入者が減少。→親の協力が見えない。
- ・若い人も高齢者も、他人との関わりを嫌がる人が増えている。
- ・マンションが増えてきて、住んでいる人がわからない。
- ・地域力の減退による子育て家庭の孤立。

<理想>

- ・地域力の再生。挨拶から井戸端会議。地域の集会所や空き家を活用して区単位で交流。
- ・お隣さん、向こう三軒両隣。
- ・班長さんが声かけ、見守りをしてくれる。
- ・地域住民のつながり。隣近所の方々の顔がわかる。気軽に挨拶ができる。
- ・大人も子どもも明るいあいさつ！
- ・子育てファミリーを孤立させない。ベテランママ、パパ、爺の活躍。→安心して任せられるルールづくり。子育ては地域で行う。

【グループワーク②「将来像に近づけるための取り組みを考えよう！」 取り組み】

- ・名簿ではなくゴミ袋を持ってご近所へ声掛け。
- ・明日からでも声掛けを始める。
- ・地域の絆を再生。→有志の連携や発掘、ボランティアの推奨、行政の相談1本制強化、教育界の「福祉シフト」
- ・自治会加入のすすめ。→地域活動を積極的にやる。→隣近所の付き合いにもなる。
- ・子育ての人たち寄っといで！
- ・地域住民同士がふれあえる場所づくり。
- ・隣同士良好な関係を築く。声をかけ合う。
- ・市民館でお茶をする。

【①不安と理想】

<不安>

- ・担い手、資金不足による行政政策の停滞。
- ・福祉に対する理解不足。高齢になるとお話をしても理解が得られない。
- ・役員のなり手不足。地域によって温度差がある。体制もあると思うが、役員になる人がいない。
- ・地域活動の担い手や後継者不足。現在 60 歳くらいの役を引き受けてくれる人がいない。
- ・地域組長役員のなり手がいない。同じ人が続けてやっている。
- ・障害者への差別。
- ・それぞれの活動をしている団体同士の連携がない。

<理想>

- ・防災訓練に多くの世帯が参加してくれる。
- ・パトロール隊に若い世代の人が多く参加している。
- ・中学生ボランティアなど子どもが中核に。
- ・全員が自治会員。
- ・夏祭り、文化祭、運動会の会場がいっぱいになってほしい。
- ・地域のふれあい。地域の人が集うイベントを地区長はじめみんなで考える。
- ・地域が盛り上がってほしい。
- ・地域活動に参加するように心がけする。
- ・共生社会としてあらゆる人権保障を確保。
- ・ウェルビーイング社会へのアプローチ。課題が多様化、複雑化する社会の中で「地域力」の強化がキーワード。一人も取り残さない「幸福実感社会」のイメージを確立。
- ・子どもたちと高齢者がともに笑う社会。

【②将来のための取り組み】

- ・地域活動を続ける。太鼓、ポッチャ、マージャン、コーヒークラス再生、卓球。
- ・全員(大家族)参加型の防災訓練。自助、公助、共助。自分たちの地域を守る。自分の身は自分で守る。
- ・障害のある子も仲間。平等に声掛け。

高齢化

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 10年後知らない人ばかりになったらどうしよう。
- ・ 現状において高齢化なのに、さらに10年後が恐ろしい。
- ・ 認知症の徘徊高齢者が多発。→家族の崩壊、地域の保安警察力が限界、様々な社会問題が顕在化。
- ・ 病院に行くのにどうしよう。
- ・ どこに買い物に行こうか。

<理想>

- ・ 生活改善で認知症発症率を劇的に減少。
- ・ 健康を「高齢化」。→100歳までピンピンに。→患者を抱える家庭への支援。→地域社会の理解と協力。

【②将来のための取り組み】

- ・ 高齢者同士でお茶をしよう
- ・ 色々参加したり体を動かし、いつまでも元気に生活をする。

生活の不安

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 生活困窮家庭の増加。→格差の拡大による二極化の進行。

【Bグループ】

担い手不足

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 民生委員のなり手不足。地区の福祉活動への参加者減少、興味も減少。
- ・ 地域活動の後継者不足。住民の地域への意識が低下。
- ・ 生活に余裕がない。
- ・ 自治会の会員が減少している。
- ・ 地区の行事、活動への参加の減少。
- ・ まちづくりへの興味、関心が薄らいでいく。マイホーム主義が確立したため隣の人
が何をしているかわからない。

<理想>

- ・ 誰もが民生委員の気持ちを持っている。福祉活動の啓蒙。全員参加の活動。
- ・ 自治会未加入でも様々な人が一緒に楽しんで参加できる地区の行事を増やしていき
たい。
- ・ 子どもや高齢者にやさしい町。誰もが参加する地域行事。
- ・ 自治会活動、福祉活動、ボランティア活動が楽しいことを知らせる、体験するイベ
ントが沢山行われていく。

【②将来のための取り組み】

- ・ 楽しい地区行事をつくる。参加した行事が楽しかったら「やってみよう」と思い役
員に参加してくれる。
- ・ 子どもたちが楽しめる行事。→大人も付いてくるためボランティアの参加も増え、
地域全体で楽しめる行事に。
- ・ 魅力ある自治会活動。自主参加型の行事活動を充実する。年齢層 40～50 代の参加を
促す。
- ・ 昨年とは違う地区行事。学生や独身者も参加したくなる行事。
- ・ 祭礼、盆踊り大会など自治会未加入でも楽しめる行事をつくる。
- ・ 毎年しつこく開催。参加者が 50 人いると 10 年あれば 500 人になる。
- ・ 住民参加の企画運営を行う。
- ・ 公民館祭りのサブイベントを楽しくする。

高齢化・単身世帯の増加

【①不安と理想】

<不安>

- ・生活資金不足。
- ・一人の家庭の増加。知り合いが少ない。
- ・自治会やいきいきクラブに加入していないひとり暮らしの高齢者が増加。
- ・高齢者や障害者のつながりが希薄化し、地域社会の中で孤立する。
- ・移動が難しい。不便。

<理想>

- ・高齢者のケア充実。
- ・安心して住める。隣近所での助け合い。助けてくれる人が近くにいる安心感。
- ・近所ですべてが揃う。

【②将来のための取り組み】

- ・孤立しない高齢者。LINE など情報支援が進む中での対応を考える。
- ・福祉面の充実に限らず、孤独死など孤立しないよう対策が必要。

防災

【①不安と理想】

<不安>

- ・個人情報が行き過ぎて弱者への関心が薄くなる。災害の際に弱者を助けることに気付かない。
- ・大地震などの災害。水害、浸水被害の恐れがある地域が多い。住民同士の連携が不足している。

<理想>

- ・自主防災会との連携。在宅避難の方法など、若者も高齢者も一緒に学んでいく場や取り組みを増やしていく。
- ・安心して安全な地域環境づくり。地震、台風、大雨などの天災時に対応できる体制づくり。

【②将来のための取り組み】

- ・自主防災会の避難訓練への参加。平時から組、班の中での顔、人を知る。災害時要支援者の把握。
- ・日頃の顔が見える関係づくり。訓練への参加を毎年実施する。
- ・地域住民が協力できる環境づくり。住民同士がメリットを感じる活動。

多世代交流、ご近所づきあい、ネットワーク

【①不安と理想】

<不安>

- ・子どもの元気な姿が見えない。子ども会の廃止。→インドアでの遊びが中心に。
- ・まちづくりコーディネーターと福祉サポーターが連携していない。

<理想>

- ・若い人と高齢者との交流。
- ・まちづくりの担い手がつながるネットワークができている。地区役員、市民活動団体、企業の社会貢献チーム、民生委員、まちづくりコーディネーター、福祉サポーターなどのあちこちにいる担い手がつながる。
- ・まちづくりの担い手が軸足を置いている場所で活動している。ネットワークでつながっていて、担い手同士がいつでも情報交換できていく。

【②将来のための取り組み】

- ・福祉活動の啓蒙を充実。自治会全体で取り組み、組長や班長にも参加を声掛け。
- ・他人にやさしく。あいさつをする。親しくなれば自然とお互いを気にするようになる。

【Cグループ】

自治会、担い手不足

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 寄付金の低下。
- ・ 地域の住民の顔が見えない。
- ・ 地域の役員のなり手がいない。
- ・ 地域の担い手不足。
- ・ 祭事の大イベントの餅投げもなくなってしまうのでは？

<理想>

- ・ 組に入っていなくても地区行事に参加できる。

【②将来のための取り組み】

- ・ 地域活動の活性化。→マンションやアパートができる前に地区の自治会に加入してもらうようにする。
- ・ 自治会負担を分担する。役割を分け合い負担感を減らし助け合いを実感する。
- ・ 地域の誰もが参加できるクラブ活動。
- ・ 高齢者と若者が一緒に参加できるような取り組み。→ポッチャ、太鼓の達人。
- ・ 若者の集まりやすい環境設定と行事の企画。

高齢化・単身世帯の増加

【①不安と理想】

<不安>

- ・ 集合住宅の増加による地域とのつながりの希薄化。
- ・ 独居高齢者の増加。買い物などの移動手段がない。近くてもタクシー。
- ・ 病院が少ない。
- ・ 道が狭い。
- ・ お隣さんを知らない。
- ・ 家族葬や墓じまいが増えている。

【②将来のための取り組み】

- ・ 小型バスの運行。買い物対応。
- ・ 免許返上者だけでも高齢者のタクシー券。

少子化・生産人口の減少

【①不安と理想】

<不安>

- ・結婚しない30代～50代が増加。
- ・総人口は増加の予測だが、生産人口のみ減少の問題あり。

<理想>

- ・人口増加を図り生産活動の活性化。

【②将来のための取り組み】

- ・子育て支援の充実。

行政について

【①不安と理想】

<理想>

- ・市の財政のスリム化

【②将来のための取り組み】

- ・収入の増加。→ふるさと納税、クラウドファンディング。
- ・収入・支出の見える化。

理解

【①不安と理想】

<不安>

- ・認知症、発達障害の増加。

<理想>

- ・ともに学び互いを知る。
- ・声を掛け合う。
- ・地域でオレンジリングを。安心して暮らせる地域づくり。

【②将来のための取り組み】

- ・要支援者サポートを強化。→避難訓練を実施。
- ・互近助。→まずはお隣さんに声をかける。隣が隣に声をかけ、周り皆に声をかけられるようになる。
- ・オレンジリングのように、相手に信頼、安心してもらえるように見える化する。
- ・小中学校、地域などで勉強の機会を増やす。



(3) 南部地区

◆意見まとめ

南部地区では、高齢者が多くなっていることで、高齢者のひきこもりや孤立への心配の声があげられています。その解決策として、日頃の声かけやサロンや趣味の会、イベント等の楽しみを中心にしたつながりづくりが提案されました。

また、交通の便が悪いため、スーパーが近くにないので買い物に困る、通院が大変といった意見が出され、交通の足の充実やネットスーパーなどのデジタル技術の活用が提案されました。

定年の延長や若い世代の共働きの増加などにより、従来の地域活動の役員や担い手がないことで、地域の活動の存続を不安視する意見があげられました。それに対しては、趣味や生きがいづくり等を地域デビューのきっかけにして、「参加者」から「担い手」、そして「リーダー」になってほしい、地域のみんなが「自分のまちは最高だ」と思えるまちにする、「地域に恩返し」したいと思う住民を増やす必要があるという意見が出されました。

さらに、子どもたちの活動を大人が支援する、子どもと高齢者が交流する、中学生のボランティア精神を活かして活動してもらう等、子どもの活動を促し、交流を図ることが提案されています。

◆内 容：

【Aグループ】

高 齢 化
【グループワーク①「10年後の地域福祉の将来像を描こう！ 不安と理想」 <不安> ・高齢化がより進む。いずれ誰でも高齢者になる。 ・孤独死。現在一人住まいの人が多くなっている。 ・ひとり暮らしの高齢者の見守り。 ・高齢者は文章や役所の作ったものを読むことが難しい。 ・介護の需要と供給。
【グループワーク②「将来像に近づけるための取り組みを考えよう！」 取り組み】 ・独居者の手助け。安否確認も兼ねてタブレットを支給する。 ・自治会組織を使った高齢者への声かけ、見守り活動。 ・安否確認のため、市民だよりを手渡しする。 ・隣近所で定期的に声かけをする。

生活の不安

【①不安と理想】

<不安>

- ・地域にスーパーがない。近くにないため買い物に困る。
- ・通院が大変。バスの回数が少ない。タクシーは高い。

【②将来のための取り組み】

- ・無料バス路線を増やす。
- ・移動販売。
- ・スーパーの会議室などを借りて会合を行う。→ついでに買い物ができる。
- ・デジタル情報を使った買い物手段。注文した商品が自宅に届くシステム。→地元スーパーとタイアップ。

多世代交流・担い手不足

【①不安と理想】

<不安>

- ・年代層の生き方のギャップを感じる。小学生や中学生が地域の住民であるという意識を高める必要がある。
- ・福祉を受け継ぐ人が少ない。お役をお願いしても自分の生活で精一杯と断られる。
- ・子ども会としての組織活動が難しい。役員のなり手がいない。
- ・子どもの見守り。小学校登下校の地域見守り活動の参加人数が少ない。

<理想>

- ・住む人が我がまちは最高だと思うこと。刈谷市が住みよいまちとなる必要がある。

【②将来のための取り組み】

- ・高齢者との遊びは楽しい！グランドゴルフの共演。
- ・中学生のボランティア精神を生かして世代間交流を充実させる。
- ・地域行事の企画から世代間を越えて関わってもらう。
- ・子どもの福祉にも目を向ける。
- ・わいわいサロン。お茶やコーヒーを出してワイワイ話をするキッチンサロンを開く。
- ・趣味の会でひきつける。ひきこもり対策にもなる。
- ・近所の集会所でお茶飲み会を開催し、定期的に役を決める。
- ・大人と子どものふれあい。地域で世代間のふれあう機会を多くする。祭り、盆踊りなど地域活動を行う。
- ・世代間交流。子どもと高齢者の交流のために色々な行事を考える。
- ・子どもが主体となった運営に変えていく。大人はサポートに。→例) 小学4年生の二分の一成人式を子どもに運営をしてもらう。

ご近所づきあい、希薄化

【①不安と理想】

<不安>

- ・希薄化対策が難しい。他人に打ち解けさせるためにどうすればよいか。
- ・隣人にも関心を持たない人へのアプローチ方法。
- ・地域住民が地域に対して関心が低い。
- ・自治会の役員のなり手がいない。
- ・顔の見える付き合い。近くの人でも顔を合わせて話をするのが少ない。
- ・集団就職してきた人に独居居住者が多い。近隣に知人、親戚が少ない。
- ・県外に住んでいる親戚が疎遠になってきている。
- ・地域防災。防災への関心が少ない。防災訓練への参加も少ない。
- ・各地域の自治体活動と各種グループとの連携。

<理想>

- ・刈谷市が住みよいまちになる。運命共同体のまちづくりが必要。
- ・隣近所の付き合い。例えば5人組とか。
- ・地域の交流を多くするために行事に沢山の人に参加してほしい。

【②将来のための取り組み】

- ・お互いに声かけをする。
- ・各種団体の集約。団体が多すぎるため単一で超専門的にする。
- ・市民館の利用。

防犯・困りごと

【①不安と理想】

<不安>

- ・空き家の増加。維持管理の問題。
- ・困りごとの相談場所について。

【Bグループ】

担い手不足

【グループワーク①「10年後の地域福祉の将来像を描こう！ 不安と理想」

<不安>

- ・地域の役員になりたくない。
- ・いきいきクラブや自治会の存続。→役員、担い手がいない。
- ・サロン活動の存続。中心メンバーが不在。続けられる方針を考えたい。
- ・子ども会の存続。役員のみ手がいない。
- ・子育て世代の親の共稼ぎ。両親とも地域に関われない。→子ども会の解体。
- ・70歳定年問題。地域活動のキーマンがいない。

<理想>

- ・個人の特技の共有化で地域に貢献する。

【グループワーク②「将来像に近づけるための取り組みを考えよう！」 取り組み】

- ・会長、会計など役員の負担軽減。
- ・同年会など。

防災

【①不安と理想】

<不安>

- ・防災意識の低下。防災知識不足。災害経験がない。
- ・個人情報のため立ち入れない。災害時手助けしたいが、誰がどこに？

<理想>

- ・防災意識を高める。自助、共助、公助の知識、レベルアップ。
- ・要支援者の安否確認の確立。

【②将来のための取り組み】

- ・共助のしくみと学びの場。
- ・防災学習センターの建設。防災知識と防災自助力の向上を目指す。
- ・要支援者の支援体制の構築。
- ・子どもと高齢者が交わる多世代交流イベントに参加。
- ・防災訓練。

ボランティア

【①不安と理想】

<不安>

- ・ボランティアの苦境。ボランティアのスタッフが見当たらない。いつまでもボランティアでは成り立たないのでは？
- ・高齢化と仕事をしている女性が多いのが原因。

【②将来のための取り組み】

- ・世代を越えた地域の取り組み
- ・中学生や青年団の有効活用。自立型人材や創造力のある人材の育成にもつながる。

高齢化、単身世帯の増加

【①不安と理想】

<不安>

- ・60歳代後半の人たちが行事に参加しない。
- ・高齢者が家から出てこない。活動に参加している人はいつも同じ人たち。外出しない人がほとんど。
- ・8050問題。未婚者の増加。
- ・公園などの老朽化。→高齢者の集う場所不足。
- ・高齢者単独世帯の増加。老々介護や買い物難民の問題。

<理想>

- ・高齢者に応じたまちづくり。
- ・皆で集まり活動できる。
- ・気軽に集まれる場所。大きい場所はいらない。小さくても沢山欲しい。

【②将来のための取り組み】

- ・みんなの居場所づくり。
- ・市民館にカフェテラスを開設する。
- ・公園で家庭菜園。
- ・高齢者施設と幼稚園が畑で交流。

安全・安心

【①不安と理想】

<不安>

- ・半城土南部の交通状況。工業団地の開発により通勤車両が増加した。
- ・地域の景観不備。公園設備の老朽化。

<理想>

- ・安全、安心な地域に。

【②将来のための取り組み】

- ・課題や対策の情報共有化。
- ・地域課題(要望)カルテの導入。

